（試験研究課題年次別解説集様式第 3-2 号：継続課題）

クエの栽培漁業研究

（予算区分　県費　研究期間　2023 年度～）

担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場　山田博一

【研究の背景とねらい】

・クエは関東以南の太平洋沿岸から東シナ海沿岸に分布し、定置網や釣りで漁獲されます。全長 1.5m、体重 50kg ほどに成長する大型魚で、食味が良いことから高級魚として扱われています。しかし、水揚げ量は少なく、“幻の魚”とも呼ばれています。

・第８次栽培漁業基本計画で、クエは研究対象種として位置付けられ、種苗生産施設で量産を実施し、放流対象種としての適性について検討することとされています。

・現在、不定期に漁業者による種苗放流が行われていますが、放流方法や回収率などの放流技術が確立されていません。

・そこで、クエの放流対象種としての適性を明らかにするために、漁獲資料を収集するとともに資源生態、放流技術について解明していきます。

【これまでに得られた成果】

・標識方法の検討を行いました。アンカータグの脱落試験では装着後２年を過ぎるとタグ脱落率は８割に達し、アンカータグは標識として有効ではありませんでした。腹鰭抜去の再生試験から鰭抜去の非再生率は２歳後半まで８割を超えていましたので、腹鰭抜去は標識として有効であることがわかりました。

・市場調査や遊漁情報から得た全長組成（図１）から、20～40cm サイズは港内で、40～50cm サイズは沿岸の釣・刺網漁場で、50～60cm サイズは釣・刺網漁場より沖の定置網漁場で、60～120cm サイズは御前崎沖のような沖の根で生息していると考えられ、成長とともに深所への移動が想定できました。

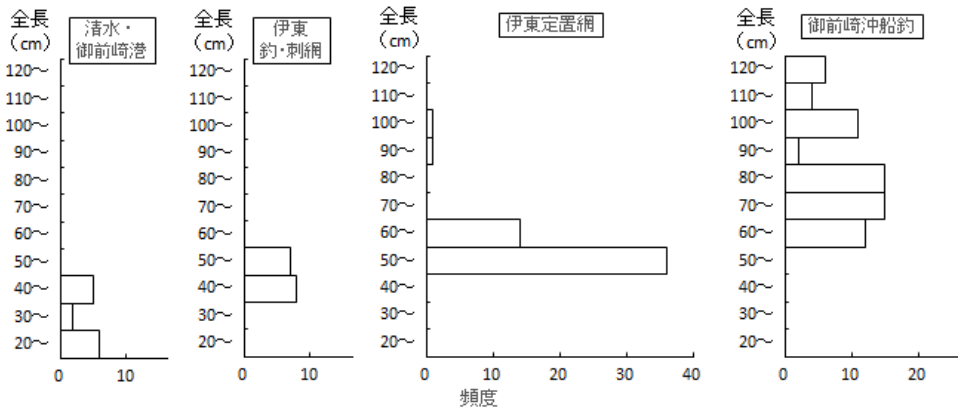

図１　清水港・大井川港、伊東魚市場、御前崎沖船釣でのクエの全長組成

【期待される効果】

・クエの資源生態の解明、放流技術の確立によって、放流対象種としての適性が明らかになり、栽培漁業が推進されます。

【今後の計画】

・クエの漁獲を遊漁の実態を含めて、明らかにします。

・市場調査で漁獲物を測定し、成長、生残等の情報を得ます。

・種苗生産施設と共同で、成熟、初期生態についてまとめます。

・放流後の観察や標識放流によって、放流方法や場所の適否、漁獲回収の状況を明らかにします。

（作成　2025 年４月）